

**み** ミドワイフ妊婦とともに助産師さん

《助産師さん》

産科病棟で、安定感のある美しい赤ちゃんの抱き方をしている女性を見かけたら、それが助産師さんです。お産の時は「はい、元気な男の子ですよ！」と取り上げた赤ちゃんを産婦さんの胸の上に乗せてくれ、産後は「赤ちゃんはこう抱いて、深くおっぱいを含ませてね」と、授乳・育児をサポートしてくれます。



産科医になりたてのころ郷里・山梨の母に「お産は助産婦さん、帝王切開は外科の先生がやってくれるずら（山梨の方言でやってくれるのでしょうかの意）」とよく言われました。自分の息子が人さまのお産を扱ったり、まして帝王切開をすることが信じられないという母心ですが（じゃあ私は何をやるのでしょうか）、素人の母なりに助産師の重要性はよく言い当てています。

2002年3月、『保健師助産師看護師法』の改正により、『助産婦』という名称が『助産師』に改められました。元来助産婦という言葉は、助産・婦すなわち「助産をする婦人」という意味と、助・産婦すなわち「産婦を助ける人」という2つの意味に解釈できるそうです。前者の意味ですと助産・婦から助産・師への変更は妥当といえます。しかし、後者の『産婦を助ける人』という意味に解釈した場合、助・産師ではおかしいこととなります。こうしたことから、助産婦という言葉の方に親しみを持つという方も多いようです。

助産師をめざす看護学生さんは、実習で「継続ケース」といわれる妊婦さんを1～2名担当します。毎回の妊婦健診から、出産はもちろん産後の授乳・育児までお手伝いし、この間密に連絡を取り合って、妊婦さんのよき話し相手、相談相手にもなります。学生実習というと練習台にされるイメージがありますが、この「継続ケース」は妊婦さんにとってもメリットが大きく、頼んでつけてもらってもいいくらいです。

学生さんのおかげで助かった経験もあります。妊娠末期で出血した妊婦さんが、たいしたことはないと思って様子を見ていた時、担当の学生さんから定期便の電話がありました。学生さんは症状を聞き「すぐ病院へ行って下さい」と指示しました。結果は胎盤早期剥離でした。これは胎児の死亡や母体の大出血を招く恐ろしい事態ですが、幸い初期だったので、緊急帝王切開により母子ともに無事でした（もちろん学生さんがついてなくても、妊娠中に変化があったら気軽に病院に連絡してくださいね）。

助産師のことを英語でmidwifeといい、14世紀の古くからある言葉だそうです。語源的にみるとwith womanの意味です。女性（妊婦さん）とともにいてくれる助産師を頼って安産しましょう。



**し** 出血がなくて胎動あればよし

《胎児の元気さ》

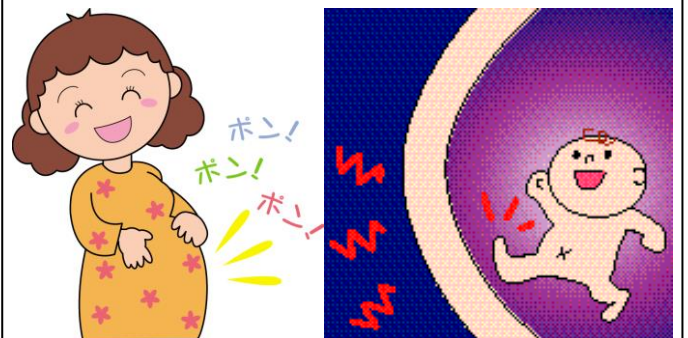
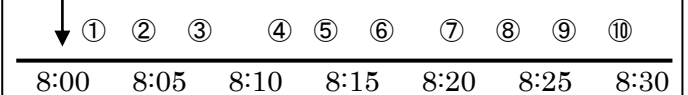
お腹の中にいる出産予定日1カ月前の胎児と、出生して1カ月後の新生児、どちらが安全な状態にいますか。お母さんのお腹の中で保護されているから胎児の方でしょうか。いいえ、胎児の方が圧倒的に危険なのです。胎児は臍の緒（臍帯）という1本の命綱とその先にある胎盤により養われています。臍帯や胎盤のトラブルでとたんに危険な状態になり得ます。

一般に妊娠満期の妊娠の600～700例に1例の割合で胎児死亡が起こるといわれています。済生会新潟第二病院の統計でも、妊娠36週に至った妊娠11907例中、12例で子宮内胎児死亡が発生しており、頻度は992分の1でした。12例中5例が胎盤早期剥離、1例が胎児異常、6例は原因不明ですがおそらくは臍帯因子と考えられます。

生まれた赤ちゃんは、自力で呼吸をしていますので、臍帯頼みの胎児に比べれば、はるかに有利です。重症な心疾患などの先天異常がなければ、乳児突然死候群などの発生頻度は6000分の1ですので、不慮の事故などに注意すれば胎児より格段に安全といえます。

「お産が近くなると赤ちゃんが動かなくなる」。産科に関する誤った言い伝えの最たるもので、しかもかなり広く流布しているので困ります。「お腹が尖っていたら男の子」のような他愛のない言い伝えなら罪はないのですが、確かに妊娠末期になると胎児の頭が骨盤内に固定されるので、胎動の大きさは多少弱まる場合もあります。しかし動く回数としては減ることはないことを再確認していただきたいと思います。

胎動が良いかどうかを知る目安として「テン・カウント・タイム」があります（妊娠30週以降で有効）。時間を決めて横になり、胎動を数えていきます。1回、2回と指を折って胎動を数え、10回動いたら終了です。その10回動くまでの所要時間がテン・カウント・タイムです（下図の例では8時に開始し10回目が8:28なので28分）。この時間が短い方が当然いいわけで、通常20～30分です。60分以上かかった場合は病院に連絡するよう当院では呼びかけています。



上述のように臍帯因子と並んで胎児死亡の重大な原因である胎盤早期剥離では、たいいていの場合出血を伴います。もちろん胎動も感じなくなります。従って「出血がなくて胎動あれば」胎児は元気だと、ごく稀な例外を除いて言ってもいいと思います。